

2019 年度通常（第 3 回）理事会議事録

日 時： 2019 年 11 月 30 日（土） 11：00～16：30

場 所： 夢の島マリーナ会議室 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、馬場益弘、中澤信夫、川北達也、坂谷定生、富田三和子、平松隆、宮野幹弘、中野佐多子、安田大助、尾形依子、斎藤渉、作田智恵子、橘田佳音利、高間信行、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、大西治夫、森田豊三、黒川重男、磯部君江、岡村勝美、菊池邦仁、新田肇、中村和哉、宇都光伸

以上 29 名

出席監事： 児玉萬平、上野保、紙谷雅子

以上 3 名

オブザーバー： 安藤淳総務委員長、松田一隆財政委員長、柳澤康信広報委員長、金子純代キールボート強化委員長、鈴木保夫参与、望月宣武参与/国際委員長、大村雅一事務局長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 32 名中、出席者 29 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、2019 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、高間信行、中島量敏の両理事が任命された。

河野会長から、年内最後の理事会を開催すると発言があった。年末には今年最後レースであるパラオレースが控えている。オリンピック関係では、マラソンが札幌に変更にされた。川北専務がチケット展開をしてくれている。基本的に観戦者が観戦費を支払う。津波対策で削減されたチケット分はレース海面に行けるチケットとして旅行会社経由で販売される予定。JSAF としてスポンサー、選手の家族分等、必要最低限は確保する必要がある。来年に向けて代表選手が決まってきている。追加で強化が必要だったら費用を捻出し金メダルを取りたい。新聞記事のコピー並びに TV の録画 DVD の量を見ていただければ過去とは比べ物にならないくらいメディアに露出している。年内最後の理事会で審議事項が多いがしっかり審議いただきたいとの挨拶があった。

〈審議事項〉

1) 2020－2021年度JSAF理事推薦候補者の推薦手続きについて

安藤総務委員長から資料に基づき、2020－2021年度JSAF理事推薦候補者の推薦手続きについて説明があった。

定款並びに理事及び監事候補者推薦手続規則により、現理事（任期2年）の改選を行う。任期は、新理事を選任する評議員会の開催日（2020年6月）を起点とする。理事推薦候補者の評議員会への提出に関する一連の手続については、理事及び監事推薦候補者管理委員会（以下、「役員推薦候補者管理委員会」という）が行う。本日の理事会において、会長が推薦した役員推薦候補者管理委員会委員候補者を提示し、同理事会決議により委員が決定された後、理事会終了後に同委員会初会合を開催し、互選により委員長を選任するとともに、役員候補推薦手続を開始するとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 2020－2021年度役員候補推薦管理委員会の設置について

安藤総務委員長から資料に基づき2020－2021年度役員候補推薦管理委員会の設置について説明があった。

役員候補者推薦管理委員候補者は、平賀威氏（再任）、浜崎濠次郎氏（再任）、戸張房子氏（新任）とする。本理事会決議を経て、委員会設置するとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) 2020－2023年度評議員選任手続きについて

安藤総務委員長から資料に基づき、2020－2023年度評議員選任手続きについて説明があった。

（1）以下の基準により、水域ごとの評議員選出枠を設定する。

前回（平成28－31年度）評議員選出枠と同数とする。

（2）全国連携組織からの選出枠（6名）、有識者（3名）は、現行通りとする。

但し評議員選任にあたっての努力目標を下記のように設定する。

1. 本年6月にスポーツ団体ガバナンスコードが制定されました。このコードは13におよぶ原則が規定されており、来年度よりその全項目の達成状況について、すべての中央競技団体（NF）に毎年報告、および改善計画の公表が義務付けされます。

2. このガバナンスコードでは、以下のとおり明記されております。

「原則2（抜粋）適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである。（1）組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること① 外

部理事の目標割合（２５％以上）及び女性理事の目標割合（４０％以上）を設定するとともに、その達成に向けた具体的な方策を講じること② 評議員会を置く NF においては、外部評議員及び女性評議員の目標割合を設定するとともに、その達成に向けた具体的な方策を講じること」

３．また、外部理事（評議員）の定義として、以下のとおり明記されております。

「当該団体の何らかの役職（例えば、各種委員会の委員等）に就いている有識者について、これらの専門的知見（例えば、法務、会計、ビジネス等）による貢献を期待して理事として任用している場合には、外部理事として整理すること」

４．今回の評議員の選任においては、このガバナンスコード遵守の観点から、以下のとおり JSAF としての努力目標を掲げて対応いたしたいと存じます。

①水域ごとの選出枠の２割以上を女性とする。（現状の JSAF 女性会員比率 20%）

②有識者枠及び水域ごとの選出枠において、外部評議員比率向上を目指す。

５．関係各位のご理解とご協力をお願いいたします、との発言があった。

満場一致で承認された。

4) 評議員選定委員会の委員変更について

安藤総務委員長から資料に基づき、評議員選定委員会の委員変更について説明があった。評議員選定委員会委員（事務局委員）を、定款 12 条 2 項及び評議員の選定委員会運営規程 3 条に基づいて、大村雅一氏から寺澤寿一氏に委員を変更する。

満場一致で承認された。

5) 2019 年度挙行日本セーリング連盟 定期表彰

安藤総務委員長から資料に基づき、2019 年度挙行日本セーリング連盟定期表彰について説明があった。

2019 年度定期表彰受賞候補者推薦書につき、JSAF 総務委員会及び常任委員会で可否確認をした表彰種別と審議対象者は、功労賞 1 名（渡邊整市氏）、優秀指導者賞 1 名（金矢泰弘氏）、優秀競技者賞 11 名（吉田愛氏、吉岡美帆氏、土居一斗氏、木村直矢氏、市野直毅氏、長谷川孝氏、長田雅子氏、富岡三枝氏、石井孝良氏、石井颯太氏、杉匠真氏）を取り纏めた。2020 年 1 月 25 日開催の全国加盟団体代表者会議において、表彰すると
の発言があった。

満場一致で承認された。

6) 一般社団法人横浜ヨット協会の加盟について

安藤総務委員長から資料に基づき、一般社団法人横浜ヨット協会の特別加盟団体申請について説明があった。

一般社団法人横浜ヨット協会から日本セーリング連盟運営規則第 8 条 1 項(1)による特別加盟団体の加盟申請があった。総務委員会において、JSAF 特別加盟団体（艇種別）として連盟加盟するための条件に該当していることを確認した。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) JSAF 中長期ビジョン

2) JSAF ビジョンに基づく長期目標と 2020 年度方針

3) 2020 年度事業方針（案）

川北専務理事から資料に基づき、JSAF 中長期ビジョン・ゴール（案）策定について提案があった。

具体的な目標を 2030 年に達成したい数値を掲載した。議論していただきたい。

短期目標も設定したので、これに合わせて事業目標を固めたい。2020 アクションプランについて資料 9 JSAF 方針案については 2 月理事会審議を行う。専門委員会にヒアリングを行い、年内に資料見て意見をいただき、来年度の事業内容を検討するが、これに合わせて事業の見直しも考えていただきたい。2020 年東京オリンピックの成功と拡大発展を試みたい。

理事一人一人にビジョン実現に参加していただき、理事全員参加で関わっていただきたいとの発言があった。

中島理事から、資料 8 について「(3) もっと強くなる」のところで、2020 年度コーチ資格取得について他競技と比べると女性比率が少ない、メンバーの残留比率も考えていただきたい。セーリングを続ける女性が少なく今後、女性の活性化を図っていただきたいとの発言があった。

川北専務理事より今後、ジェンダーイコールに向けて動いていく。他の競技に比べるとセーリングは、まだ進んでいるが、今後更に女性が増えるよう努力していく。と発言があった。

高間理事からアクションプランの 1-2 の「気軽に始められるモデルづくり」e-Sailing についてどう考えるのか。ヨットハーバーに wi-fi の環境を設置するか、イベントごとに設置するのか、海上が荒れているから e-Sailing でイベントを開催するのか等、どうのよう

に普及推進するのかが意見を聞かせていただきたい。気軽に参加しやすいなど具体的な方法を提示していただきたいと発言があった。

川北専務理事より専門員会との話し合いの上、e-Sailing は来年 3 月のボートショーで環境を展開したいと考えていると発言があった。

菊地理事からヨット部 OB,OG は JSAF を続けるのに敷居を高く感じており、大学卒業と同時に殆どの学生がセーリングをやめてしまっている。セーリングに関わり続ける人を増やすにはヨット部 OB,OG の経験者がどこでも気軽にセーリングができる仕組みを作るべきと発言があった。

川北専務理事より OB、OG が楽しめるレースの企画、ファミリーヨットレース、若手が楽しめるイベントを企画するなどを考えたいと発言があった。

橘田理事から注目選手にメディアを付け、一般の人に周知する。メディアに積極的な情報提供を行い、東京オリンピック後も継続してメディア展開できるような方策が必要である。と発言があった。

川北専務理事より JOC マーケティング会議において東京オリンピック後は加盟団体への支援が減少する。JOC からオリンピック出演イベント等を加盟団体と協業したいと提案いただいている。ビジョン委員会に追加で検討したいと考えている。情報を展開する予定ではあるが、現状では、人、金を増やすことは難しく、実現可能な具体策が必要であると発言があった。

川北専務理事より会員増強プロジェクトについて委員会として設置を検討しており、提案するとすれば、2月理事会にて審議事項とすると発言があった。

河野会長からビジョンについて理事会でまだ十分議論されていないのではないか？もっと、理事会で検討する問題であった。河野会長の理解では、資料 8 に具体性を持たない限り、議論はできないと思った。ここにいる理事の皆さんが考え、思ったことが資料 8 に記載されており、反対の意見もない状況である。理事会でも、耳障りの悪いことを議論するべきである。財務の健全化、キャッシュフローも出来てきたが、今後、事務局経費や委員会支出など一般会計を真剣に考えないといけない。2020 年以降、運営に必要な財源について、組織として深刻なことは、経常的な支出を賄っていないことで、これは連盟としておかしい。会費値上げも議論する必要がある。第 2 は会員増強の問題で具体的な提案が出てきていない。過去に有効だったことは、役員の妻などを勧誘したことだが、微方

策ではあるがやるべきではないか。地方加盟団体の役員が JSAF 会費未納入、レースに出る際も JSAF 登録をしないでレースをしている。もっと根本を見返し、苦い議論が必要と思う。指導者の男女比率など議論の対象であるし、ハラスメント対策は何か？オリンピックに向けたレースでマスコミが取材に来ても TV 中継してもらえない状況にない。何故ならば、スタートを見ているゼネリコの繰り返しで中々レースが出来ず、そのうち風がなくなり、スタートしても途中でレース中止などが発生している。日本の技術を使って科学的に解消していかないといけない。JSAF からワールドセーリングに訴え、ルールやレースフォーマットを変更してレースを見てももらうことも積極的に取り組んでいただきたい。第3は広島県連のパーティに出席したが、パラを推進するのに具体的なターゲットを示してサポート体制を構築していた。今後、パラの問題をどのように取り組んでいくのかは議論が必要である。パラ問題の検討は引き続き行っていく。ビジョン検討プロセスが重要であるが、アウトプットは避けて通れないことも議論しないとといけない。今後、JSAF の体制が変わったときに、どのようにしていくのが大切で議論していただきたいと発言があった。

川北専務理事よりビジョンに盛り込んでいく、新しい事業には委員会事業にメスが入ることがあるが協力していただきたい。と発言があった。

<報告事項>

1) ワールドセーリング総会報告について

望月国際委員長から資料に基づき、ワールドセーリング総会報告について報告があった。来年のワールドセーリング役員選挙に向けてワールドセーリングのカウンシルとして大谷氏を継続推薦する予定。また、新しくできるオリンピック・カウンシルにも新候補者を輩出して10月末～11月末まで選挙運動をしていかななくてはならない。2024年のパリオリンピックでの艇種決定の報告あった。パラオレースにOP20艇寄贈した継続的な活動が必要で長期のコーチ派遣について検討中である。人選には、JSAF のサポート必要である。パラオレースの詳細は新田理事補足説明をお願い致しますと発言があった。

新田理事から補足説明としてOPを20艇寄贈し、日本人がコーチングを行い、パラオ子供たち14名ほど指導している。子供たちは初めてではあるもののヨットに興味がある。活動としてはどこまで支援するかは理事会で検討していただきたい。費用について、今年はパラオ実行委員会が費用を捻出していると発言があった。

黒川理事より東京オリンピックの件について、JSAF と組織委員会で問題点の情報共有がされているのか？本当に組織委員会が動くのか不安であると発言があった。

河野会長から、ワールドセーリングが毎回懸念していることを JSAF として組織委員会へ提議している。今年は無線のこと、暑さ対策について、仮設の設備などを組織委員会が何もできていない。色々と不満があるが、来年は解消される。海上運営については好評価を得ることが出来たと発言があった。

2) 総務委員会報告

安藤委員長から資料に基づき、総務委員会報告について報告があった。

9月の理事会でコンプライアンス講習会を2回研修する開催する。明日（12月1日）講習会の参加者は40名、次回1月26日の参加者は50名である。県連は25団体のみで、外洋は11団体の参加状況を確認している。県連には再度アナウンスを行う必要がある。

川北専務理事から理事の方々もコンプライアンス講習会の参加をお願い致します。ガバナンスコードの継続について12月中旬に4年に1回の審査について情報が公開される。また、毎年7月までに実施状況の報告と公開をしなければならない。と発言があった。

菊地理事よりコンプライアンス研修会は2回のみかと発言があった。

安藤総務委員長から今年度は2回のみだが、来年度も計画的にガバナンス強化で研修の計画を検討していく予定であると報告があった。

新田理事より新システム移行団体の割合は現状どのくらいか。財務状況を考えると次年度以降に経費節減になることを考えて、新システムに移行も考える。

安藤総務委員長から口座振替、事務局負担は軽減できると考えている。財政健全化を取り組まなければならないと発言があった。

作田理事よりシステム移行についてシステムを使用している団体ごとでシステムでの管理が煩雑になっている団体もある。JSAFとしての会費のみだけではなく、団体会費の徴収について問題がある、検討する材料であると発言があった。

安藤総務委員長から管理コストも考えて検討していくと発言があった。

坂谷常務理事より会員増強を考えると決済代行システムで決済された会員については、翌年移行に会費を支払わない傾向にある。何もしなければ会員は減少する事情があると発言があった。

川北専務理事から会員増とコストダウンの整合性が必要である。仕組みが不足しているのではないかと発言があった。

河野会長より会員のメールアドレスの登録はどのくらいされているのか。東京都連から

は通知がある。一斉メールで配信をすればよいのではないか。

安藤総務委員長から現状メールアドレスの登録状況は8割くらいである。ただしジュニア、高校生、大学生会員は親、顧問の先生、部活動単位で登録している部分もあり個人対応できていない面もある。学生はアドレスを含めて3、4年で変わっていくと発言があった。

新田理事よりアマゾン定期購読などは勝手にクレジット決済される。定期的に落とせるシステムにできないか。

安藤総務委員長から自動的に引き落としは本人同意が必要になり資格と徴収義務は必要である、会員定義など改めて明確にしないといけない、会員増強のなかで検討していきたいと発言があった。

川北専務理事よりメリットデメリットを整理して議論する場が必要である。理事会を議論する場にしていきたい。今後、報告事項を圧縮して議論することを優先していきたい議題を提供してほしいと発言があった。

3) オリンピック準備委員会報告（会員システム）

桑原オリンピック準備副委員長から資料に基づき、オリンピック準備委員会について報告があった。資料として配布させていただいたクリッピング、配布はしていませんがDVD資料を見ていただければわかるが、ニュースなど報道機関に取りあげられることが非常に多くなってきた。次の資料は10月末に組織委員会で発表された江の島ヨットハーバー利用状況が利用者に配布され、艇の搬出予定が記されている。2020年6月14日から開催されるSWCの実行委員会に様々な問い合わせがきているが、SWC実行委員会だけの判断では回答できないため神奈川県と組織委員会に回答を求めているが明解な回答がなく困っている。また小型船舶登録、検査特例処置を高城氏と実行委員会で毎回対応している。臨時ライセンス（オペレーターカード）を発行している。次回の理事会で2020年6月14日SWC受け入れ体制についての実態を報告する。当初、オリンピックのセーリングのチケットは1日5000枚チケットを販売する予定だったが、津波の関係で3700枚に縮小された。組織委員会としては観戦チケットの売り上げを伸ばしたいため、旅行会社3社に海上観戦案を提示し、改めて3社に日程の抽選を行った。概要は50名乗りまたは100名乗りで逗子マリーナ、葉山マリーナから1日1回3時間海面を観戦という内容だった。7月26日～8月5日までで特に8月5日は470級のメダルレースの日でJSAFとしては何としてでも確保したい日であったが、日の丸セーラーズスポンサーであるJTBをお願いをして抽選をしていただいたが、抽選の結果8月5日は別会社に決まってしまった。チケットは食事つき5万円前後で発売される予定で、誰でもチ

ケットが買える。JSAFとしては別会社に決まってしまったチケットを何としてでも確保し、スポンサー、選手の家族にお渡ししたいと考えている。旅行会社で販売が決まった場合の販売方法も含めて報告する。また新たなチケットが販売される予定になっている、と報告があった。

川北専務理事より現在申し込みいただいているチケットと一緒に連絡すると発言があった。

4) オリンピック強化委員会報告

斎藤オリンピック強化委員長より資料に基づき、オリンピック代表候補者の内定、JOC ジュニアオリンピックカップ（ジュニア部門）の選定、機能強化ディレクターについて報告があった。2020年東京オリンピック代表選手の選考結果について9月24日～28日にイタリア・トレボレにて開催された2019年RS:X級世界選手権において、富澤誠選手が第10位に入り、3つの選考大会の通算成績で136ポイントを獲得し日本選手最上位となり、選考要項規定に基づき、日本代表選手として選考いたしました、後日JOCに日本代表として推薦することをご了承願います。（満場一致で承認された。）また補欠選手について選考要項の規定に基づき、470級男子、土居、木村組（アビームコンサルティング）、RS:X級男子、池田選手（明治大学・KAYA）を補欠選手として認定致しました。なお、補欠選手は、日本の第2位の選手が2019年または2020年のワールドでオリンピック出場枠内に入っている場合に認定することになっている。JOC ジュニアオリンピックカップ（ジュニア部門）の選定、機能強化ディレクターについての報告の詳細は中村理事から補足説明をお願い致しますと発言があった。

中村理事より2020年東京オリンピック以降、競技別拠点の機能強化のため5拠点を対象にスポーツ庁が機能強化ディレクターの募集を行い50数名の人が拠点の課題を解決する人である。今は1名内定。オリンピック強化委員会と打ち合わせ課題整理をして提案をしていただき、実現するために活動する。セーリングの世界とは別で活躍されている。内定をした方はヤフーで活躍されている方でコンサルティングマーケティングにたけているとの報告があった。

5) 障がい者セーリング推進委員会報告

高間障がい者セーリング推進委員長から資料に基づき、障がい者セーリング推進委員会報告があった。2028年パラリンピック大会での障がい者セーリングの種目復活にむけ、WS（ワールドセーリング）は、2019年に障がい者セーリングについてより多くの人のinclusionを図る手段として活動方針の見直しを行い、その結果、東京で開催予定していた2020パラワールドも中止になった。その代替策として、WSから新規企画の

「Para Sailing International Championships 2021（仮称）」（2021年アジア地域での障がい者セーリング国際大会）の日本開催の打診があり当委員会として開催招致について検討してきた。当委員会は、WSの新たな活動方針に賛同し、障がい者セーリング普及推進のためにWSから打診されたアジア地域での国際大会招致に向け準備を検討している大分県連と共に招致実現、開催へ向けて取り組む事とした。この国際大会に多くの国・選手の参加を求めるうえでは、WS年次大会（10月30日、バミューダ）で開催招致に関するプレゼンを行う必要があり、河野会長、川北専務理事に相談の上で条件付き開催招致のプレゼンを行う事で了承を得た。詳細は大分県セーリング連盟五十川氏から説明があると発言があった。

大分県セーリング連盟五十川氏から、障がい者支援は可能であり、現在九州水域の県連などに協力を依頼している、各国の通訳も用意でき、大学生、高校生、別府市旅館ホテル組合などに協力依頼を行っているとの発言があった。

平松理事より視覚障がい者の大会を神奈川県で開催した際にホストクラブに問題があった。そのため急遽シーボニアヨットクラブで開催を受けたことがある。開催にあたって注意されたほうがいいとの発言があった。

川北専務理事より2021関西ワールドマスタースゲームズ2021でもハンザで用意されている、関西ワールドマスタースゲームズ2021と連携時期が被らないように調整が必要との発言があった。

高間障がい者セーリング推進委員長から、既に和歌山とは連携している。ハンザ303を大分からも運べるようにしたい。日本財団から提供されたハンザが活躍している。30歳以上の方でハンザレースに参加したい人は応募してくださいとの発言があった。

6) 茨城国体・鹿児島リハーサル国体報告

黒川国体副委員長から口頭にて茨城国体・鹿児島リハーサル国体報告があった。9月29日～10月2日茨城国体が開催された、最終日は無風でレースが中止になったが、無事に56レース消化し天皇杯は神奈川県、皇后杯は山口県が獲得した。福井国体では、運営艇の事故が発生したが、茨城国体では、教訓を生かし事故なく終了した。また、ホームページにも掲載しているがSSクラスの女性が増えてきている。ママさん選手が少しずつセーリングに戻り始めているのではないか。リハーサル大会は鹿児島県で開催されたが参加艇が少なく、平川ヨットハーバーを使用しているが会場が狭く、リハーサル大会では開閉会式ともに近くの小学校の体育館まで移動して行ったが余り評判が良くなかった。現在は新艇庫内で開閉会式などできないか検討中である。宿についても役員

ホテルの食事にかかなりの時間がかかっていた。本国体に向けて改善を進めていると報告があった。

7) レースマネジメント委員会報告（公認申請等進捗状況一覧他）

高橋レースマネジメント副委員長から資料に基づき、公認レース進捗状況の報告があった。口頭にて JSAF 公認の 2020 年に開催される全日本大会の日程を加盟団体にお知らせする予定です。例年 1 月末を〆切にしている。日程調整してセーリングワールドカップ、オリンピックに合わせて日程を調整する。レースオフィサーの名称変更があった。ホームページの変更を進めているが、レースオフィサー運用規定の変更も必要であるので委員会で検討中であり来年を目途に規定を変更する予定であると報告があった。

8) ルール委員会報告（ルールブック電子化等）

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

①次期ルール改正（2021 年 1 月 1 日発効予定）に合わせ、JSAF が提供するルール・ブックの発行形態に、従来の紙媒体に加え、スマホ・アプリを新規開発して提供したい。提案理由としてルール・ブックもスマホ・アプリとして提供することが、ルール普及への貢献は高いと想定される。これは価格にもよるが、JSAF の収益向上へ貢献できると考える。スマホ・アプリ化することで、各章/規則のボタン・タップ、RRS の規則に紐づいたケースの表示、用語検索、アップウィンド/ダウンウィンドなどの各レグでの適用規則の検索、さらにはバナー広告を挿入することも可能であり、会員を主体とした利用者への利便性が格段に向上することが見込まれる。WS からの補遺が発行された場合の対応も極めて安価かつ容易であり、メンテナンス性に優れる。

②次の 3 大会につき、競技規則 86.3 並びに日本セーリング連盟規程 6 に基づき競技規則を変更すること（アデンダム Q の使用）についての承認の申請があり第 6 回全日本 Melges 20 クラス選手権大会、NST 伊藤園葉山シリーズ HS-4 ウィメンズレース、第 48 回全日本 470 級ヨット選手権大会、審査の結果、いずれも承認可と認められ申請の通り承認いたしましたので、報告いたします。

③第 48 回 全日本 470 級ヨット選手権大会兼第 33 回 全日本女子 470 級ヨット選手権大会兼 2020 年国際 470 級ジュニア世界選手権大会代表選考レース主催団体よりセーリング競技規則 70.5(a)並びに日本セーリング連盟規程 4.1 に基づき、上告の権利を否認することについて申請があり、審査の結果、承認したと報告があった。

④ASAF Sailing Cup / JSAF Enoshima Olympic Week 2019 におけるインターナショナル・ジュリー・メンバーについて、大会の主催団体より、次の通り選任したい旨、日本セーリング連盟規程 7.1 に基づく承認申請があり審査の結果、申請の通り承認いたしましたとの報告があった。

9) 普及指導委員会活動状況報告

川北普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会活動状況報告があった。

①指導者養成事業として、コーチⅢ養成講習会の専門科目の前期講習会は、10月の東京会場に47名、11月の福岡会場に24名、合計71名が受講した。1～2月に後期講習会を和歌山にて開催予定。また、来年度の受講申込も既に20名近くの申込を受付けている。このまま順調に受講が進めば、2023年度からスタートする国体監督資格がコーチ3に引上げられることに対し、ほぼ全都道府県で対応に目処が付くことになる。更に、指導者資格の取得促進を目指し、鹿屋体育大学の授業科目として、セーリングコーチⅢ資格を、卒業までの間に取得できるように、組み立てる予定。今年度は、その指導役割のJSPO認定を目指し、コーチⅣ資格を持つ榮樂氏が今年度コーチデベロッパー講習を受講中。

②普及事業として「JAPAN Boat Show 2020」が来年3月5日(木)～8日(日)に、みなとみらいにあるパシフィコ横浜にて開催されます。JSAFも昨年同様、セーリング活性化有志グループ「Sailing Village」と協業で、ブースを企画。今年は、昨年度人気を博した企画を継続するとともに、オリンピックを訴求するために、Nacla17を使ったトラピーズ体験や、吉田/吉岡選手の等身大パネルでの記念撮影コーナー、セーリングバーチャルリアリティ体験やe-Sailing体験など体験コーナーを中心に、家族で楽しめるイベントを用意し、子供連れの家族を対象に抽選で無料入場券を配布し、延べ4500名のブース来場を目指すとの報告があった。

10) キールボート強化委員会報告

特別に報告する事がなかった。

11) レディース委員会報告

富田レディース委員長から資料に基づき、レディース委員会報告があった。

①本年度のチャイルドルームは、レーザーワールド(利用者28人)、レーザーラジアルワールド(利用者39人)、470ワールド(利用者30人)、テストイベント(利用者41名)、ワールドカップ江の島大会(55人)、茨城国体(63人)、鹿児島リハ国体(16人)の計7回で実施した。レーザーワールドでは、大変広いスペースを用意していただいたお蔭で、子どもたちを楽しくのびのびと遊ばせることができた。8月は、470ワールド、テストイベント、ワールドカップと、ほぼ一カ月間のチャイルドルーム開設という初めての経験であった。しかし、地元のボランティア団体や実行委員会のご協力により無事に終了する事ができた。一般客の数名から、「保育士がいなくてもよいので、日頃から利用できる託児関係の施設が、どこのハーバーにもあるのが理想ですね。」との声が寄せられた。鹿児島リハサル国体では、完成して間もない平川ヨットハウスの2階、ハーバー入口近くの部屋を提供していただいた。来年の国体では事前に、実行委員会を通して広

報活動をしていきたい。茨城国体では阿見町立の保育所より毎日2名ずつ保育士さんが日替わりで、補助員として女子高校生が1名通しで来てくださった。国体では、地元の方や観覧艇乗船者のお子さんで週末は大盛況になることが多いが、今回それがなかったのは、観覧艇が、セーリング競技会場からではなく、少し離れたマリーナからの出着艇であったためと思われる。一般の来場者が少ないにも関わらず、かなりの利用者がいたのはチャイルドルームの認知度が高まっていることと、ママさんセーラーが増えたことに起因しているのではないかと考えられる。江の島オリンピックウィークは、大会自体が悪天候のため中止となった。②11月23日（土）14時～16時にレディース委員会主催第2回情報交換会を行った。第1部は日本フェンシング協会理事・弁護士の井口加奈子氏による講演会（1）各競技団体共通の問題に対して、生涯スポーツとして定着させる練習や大会の場がなかったので、現役（20代～30歳前後）を引退した後の競技者の発掘とベテラン選手権大会という大会を、全国で開催できるようにした。（2）女性競技者特有の問題に対して、家庭や家族との両立を考え、家族で参加できる練習場を提供する団体が増えている。競技者以外にも競技と関われる環境（指導者・審判員・大会運営）があることを提案（3）今後に向けて、女性役員育成プロジェクトを立ち上げ、協会のガバナンスや人脈づくりなど将来を見据えて学んでいくシステムを構築しつつある。スポーツの周りに女性がいれば子どもが集まり易く、それが将来の競技人口増加に繋がると思う。普及活動に女性はキーマンとなりうる。第2部参加者による意見交換について、三つのグループに分かれ、昨年の会で見えてきた共通の課題について意見を交換し、最後にそれぞれのグループで出された意見を互いに発表し合う形態をとった。（1）卒業後に一度ヨットから離れるとほとんど戻らない実情について、途切れないプログラムの構築と戻りやすい環境整備が必要。伊藤園カップのような身体一つで会場に行けばヨットに乗れるような機会がたくさんあるとよい。みんなが協力して全日本学連加盟大学のOG戦など企画してみても良い。いきなり競技に戻るのはハードルが高いと考える女性も多い、大会運営のボランティアなど、不定期や短期でヨットに関われる機会を増やしていく。体験の場を提供して親子で参加してもらおうとよい。子どもや既婚男性のヨットの参画の可否も、母であり妻である女性が握っている場合が多いので普及にも繋がる。（2）女性の普及拡大、今後に向けて、今年の国体ではママさんセーラーの増加が目立った。国体等ではチャイルドルームも定着してきたが、日常的には解決されない。女性がやりやすい環境の整備が急務だと思う。セーリングはまだマイナーなスポーツ。いろいろな体験をそれぞれの団体が増やしていくことも大事。神奈川県下や藤沢の小学校では授業の中で体験や啓発活動を取り入れているとも聞いている。各水域でもはたらきかけができるのでは。口コミにしてもネットにしても若い世代を取り込むためには、同世代からの働きかけが重要だと思う。若い世代に発信者となってもらう取組を。最後のアンケートでは、「女子に特化して話し合う場があることが大事。来年も参加したい。何か自分にもできることがありそう。」など、高評価の感想をいただきました、と報告があった。

12) 外洋常任委員会報告

坂谷外洋常任副委員長から資料に基づき、外洋常任委員会報告があった。

オフショア世界選手権の公示が出ない。デポジット 2500 ユーロを支払い予選大会出場し世界選手権の出場件を確保したい。その上でオリンピックを目指していきたい。フラッグリレーの最終的なパフォーマンスとしては日程を決定し4枚フラッグを東京都に贈呈したい意向である。現在調整中である。パラオレースについては新田理事から現状報告の説明させていただくと発言があった。

新田理事から資料に基づき、パラオレースについては現在報告があった。

- ① 1. OP ディンギーの寄贈と指導員の継続派遣について活動を行っている。今後 JICA の海外青年協力隊事業として取り込んで頂けるよう JSAF 国際委員会の指導を頂きながら進め早ければ2020年には JSAF 主導の下、パラオに滞在する指導員の選定と派遣を実現したい。②クルーザーレースについて7艇が参加する。OSR-1 のカテゴリーでレースを実施し、安全には気を配りソフトバンク社の衛星携帯電話／アイムコ社のイリジウム無線、又位置情報は古野電気のトラッキングシステムを採用。これらとあわせ、帆船「みらいえ(外洋三崎)」が全行程船医乗船のもと伴走する。このレースは4年に一度オリンピックの前の年に開催する予定。③マイクロプラスチック採取協力について、2020年8月にパラオ共和国にて、アワーオーシャンという国際海洋会議が開催される。日本と同様の海洋国パラオにとって海洋環境の実態の調査は早急に着手しなければならない。今回「みらいへ」と「トレッキー」に海水濾過装置を搭載し採取活動を行い、JAMSTEC の主任研究員がみらいへに乗船し採取活動を行う、将来的には GPS ロガーと簡易濾過装置が開発されれば、クルーザーヨットのエンジン冷却システムに組込継続的に採取することも可能になることが最終目標と発言があった。

13) 2020年事業計画・予算案提出依頼

松田財政委員長から資料に基づき、2019 年度事業計画・予算提出依頼があった。

2020年度事業計画及び予算を各委員会委員長に依頼する。

川北専務理事より中間報告は12月8日提出依頼している。1月6日に提出期限とした。2月初旬にドラフトの作成が必要であり、1月中に調整したい。ビジョン反映も考慮して予算作成に取り組むたいと発言があった。

14) ワールドマスターズゲームズ2021

中村理事より資料に基づき、ワールドマスターズゲームズ2021の報告があった。

ワールドゲームス2021の実施要項が提出された。年明け1月6日からエントリーが開始される。レーザー級、テザー級については基本持ち込み。ウィンドサーフィンについてチャーターはありと発言があった。

15) 2020年行事予定(案)

大村事務局長から資料に基づき、2019年行事予定案について報告があった。

16) 2019年度メンバー登録数(10月31日現在)

大村事務局長から資料に基づき、JSAF 会員登録数実績について報告があった。

2019年度会員登録(10月31日)は合計9,584名である。昨年度同月比で74人の減少となっている。2019年度末メンバー登録は1万人を割る予想であるとの発言があった。

17) 2019年度通常第2回理事会議事録案(9月7日)

大村事務局長から資料に基づき、2019年度通常(第1回)理事会議事録(案)について報告があった。

18) その他

- ①大村事務局長から資料に基づき、旭日旗について(スポーツ庁・外務省)の報告があった。
- ②大村事務局長から資料に基づき、佐賀県ヨット連盟新組織について報告があった。
- ③大村事務局長から資料に基づき、JSAF カレンダー販売について報告があった。
- ④大村事務局長から資料に基づき、2020年1月25日全国代表者会議について報告があった。
- ⑤大村事務局長から資料に基づき、JSAF 年末年始の業務について報告があった。

2019年度通常(第3回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2019年 11月 30日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 高 間 信 行

議事録署名人 理 事 中 島 量 敏

副 会 長 桑 原 啓 三

副 会 長 中 川 千鶴子

副 会 長 中 澤 信 夫

専 務 理 事 川 北 達 也

常 務 理 事 坂 谷 定 生

常 務 理 事 富 田 三和子

監 事 児 玉 萬 平

監 事 紙 谷 雅 子